

令和元年度



# 学校だより

伸びよう 豊かに たくましく ～学ぶ喜びにあふれた学校をめざして～

令和2年1月28日  
横浜市立高田小学校

## 2月号

### 「一本の樹」

副校長 田島 良子

風をはらみ 腕に 小鳥たちを遊ばせて  
私たちの生まれる ずっと前から そこに立っている 一本の樹  
暑い日は 木陰をつくり 風の日は みんなと一緒にゆれている  
一歩も動かないで じっと私たちを 見守ってくれたんだね 60年も前から  
〈筒井めぐみ作詞 筒井雅子作曲 『一本の樹』より〉

令和2年（2020年）2月10日。高田小学校は146回目のお誕生日を迎えます。明治7年（1874年）、興禅寺の一室を借りて「高田学舎」としてスタートし、まるまる145年が経ちました。創立記念式は4日に行い、そこで『一本の樹』を歌います。高田小学校は、深い思いと大切な節目に植えられた記念樹に囲まれていますので、子ども達は、どの木を胸に歌うのでしょうか。

「校しゃの真ん中にドーンと立っているポプラの木です。この木の長所は、見てもわかるように細長いことです。（中略）そして、校しゃともくらべてみましょう。なんと、木の方が高いのです。」  
（150周年を迎えるころには、ちょうど100歳になるポプラの木です。）

「サクラの木は校庭のまん中にある、とても大きな木だ。みきが太く、子どもが手を広げて五人くらいだ。春にはすばらしくきれいなサクラがさく。」

（横浜市立高田小学校として独立したちょっと前頃に植えられた桜の木なので、72歳ぐらいです。）

右の写真は、高田小を卒業した方からいただきました。

今年オリンピックの年ですが、この写真も、ちょうど、前回の東京オリンピックの年に撮られた、56年前の高田小学校です。桜の木は、ずいぶん小さくか細く、奥にはポプラの木が3本見えます。

今年の4年生の子ども達が表した木の様子から見ると、時の流れとともに木の成長も分かる貴重な1枚です。

これから、さらに複雑で変化の激しい時代を生きていく私達には、ずっと在るもの、例えば、東門の樹齢250年に近いカヤの木をはじめ、大木になっているプールの前のクスノキなど、一歩も動かないでじっとそこにいてくれる「一本の樹」の存在は、愛おしいかぎりです。

「いちちょうの木は根もとから二本に木がわかれて、一本の木と一本の木の間に太陽があたると、とてもきれいです。」  
（4年生の子どもの作文より抜粋）

「そうなんだよ。」と声に出た方、きっといらっしゃることでしょう。高田小学校に通ったからこそ知っている。時が過ぎても、同じ場所に立って同じものを見ているのかもしれない。146周年の幕開けの高田小学校を、これまでと同様に、よろしく願いいたします。